



ロータリーの友便り

ロータリーの友
地区代表委員

庄野 晋吉

(大阪RC)

(1)ロータリーの友・12月号推奨記事 ※推奨記事順
【3ページ】

まず、今月のRI会長メッセージです。第一次世界大戦は1939年にドイツのヒトラー率いるナチス党がポーランドに侵攻。当時、ポーランドと同盟を結んでいたイギリス、フランスがそれに対抗して、ドイツに宣戦布告したことにより始まった戦争です。

長い苦しい戦争の末1944年6月に連合軍が西からドイツ軍を粉砕していく為に100万もの軍で、ノルマンディー(フランス)に上陸。ドイツはこれによって8月にはパリを解放。追い込まれたヒトラーが自殺しますと、1945年5月に、イタリアに続いてドイツも無条件降伏を受け入れます。そして、1945年の8月に、広島、長崎に原子爆弾が落とされ、日本も無条件降伏しまして、第二次世界大戦は終結しました。

その大戦の終わりに、カナダ軍がオランダを解放しました時は、オランダの人々は飢餓の淵にありましたが、とりわけ飢えに苦しむ子供たちに心を動かされたカナダ軍人4人の、心温まる出来事をラビンドラン会長は取り上げています。その4人の兵士がクリスマスまでは駐留出来ないなかで、12月5日の聖ニコラスの日の前夜「シンタクラス」となって自分たちが集めたり作ったりしたプレゼントを持って、その児童養護施設を訪れた物語です。

まさに「Be a gift to the world」です。世界中のどこどの国にも心優しい人々はいます。我々が東北大地震の時に見せました日本人の心であります「思いやり」や「絆」を自分の行動で示してほしい、という会長のメッセージです。

【81～77ページ】

第2840地区の合同ロータリーデーの記念講演要旨で、テーマは「いじめ予防を考える」です。

講師は子供の発達科学研究所の和久田研究員で

すが、この講演が素晴らしいのです。非常に科学的理論的にいじめを分析しておられ、心理学的に深く解説されています。人は皆「いじめの経験者」として位置付けておられ、それが対応を難しくしていると主張されています。実に面白いのです。

いじめの定義を、マール・ボンズ達が2001年に発表しました四つのキーワードとしていますが、それは「力の不均衡」「繰り返される行動」「意図的なネガティブな行動」「不公平な影響」の4つです。それぞれを解説されていますが、いじめは当事者同士では絶対に解決できない構造を持っているので、深刻であり、難しいと言っておられますが、その関係の構造をどこかで崩せばいじめは変えられると主張されています。いじめを無くすにはまず大人が変わるべきであり、自分たちが変わらなければならないとし、学校と教育者だけではなく、地域や教育の仕組み、そして行政、家族家庭などなど、私達みんなの問題だと結論付けられています。

【7～11ページ】

今月の特集「地域社会で汗を流す」ですが、9ページには我々 2660地区・大阪ロータリークラブが取り組みました「橋洗い」が掲載されています。

会員とその家族だけでなくローターアクト、インターアクトさらにクラブ事務局なども参加した77名が、地域の人達と協力して総勢約250名で中之島の橋を洗った10回目の取り組みです。その状況はテレビ5社、新聞5社から当日と翌日報道されましてロータリーの公共イメージ向上に役立ちました。また、最後の締めとしての「天高く 心を磨く 橋洗い」が素晴らしい一句です。

我々2660地区81クラブでは、このような地域社会で汗を流す取り組みを、しておられるはずですから、どんどん「ロータリーの友」誌に投稿して下さい。



【12～16ページ】

「自然災害に備えて」という取り組みですが、20年前の1月17日に発生しました「阪神淡路大震災」では、各クラブの事務局が、会員と連絡をとるのに、大変苦労されたと聞いています。

今後発生すると言われていています「東南海大地震」ではさらなる被害が想定されていますので、我々2660地区に於きましても、この欄に掲載されている取り組みを参考にして、災害時緊急連絡網や支援システムを創っておく必要があると思います。地区としても考える必要がありそうです。

【72ページ】

友愛の広場の「忘れられていた日本兵の軌跡」ですが、この様な事実があったのかと、私は驚かされました。

1944年3月に現地部隊の反対を押し切って開始されました、大戦末期のインパール作戦は、インドへの侵攻作戦という構想にのって、ビルマ攻略戦が予想外に早く終わった直後から存在した作戦でした。

インド北東部アッサム地方に位置しビルマから近いインパールは、インドに駐留するイギリス軍の主要拠点でありました。ビルマ・インド間の要衝にあつて連合軍から中国への主要な補給路であり、ここを攻略すれば中国軍を著しく弱体化できると考えられた作戦でしたが、日本軍は、現地部隊が心配した通り、補給の確保がままならず失敗に終わり、残念ながらほとんどの日本兵が戦死しました。

この敗北した日本兵が、命からがらビルマ側に到着したのが、このカレン族の村だったのです。

この話は大战の歴史の中で全く残っていない出来事ではないでしょうか。村で大事にされた同胞たちのお墓まで造ってくれたという話に感動を覚えます。

世界中に心優しい人々は生きていることを改めて深く感じる桐生西ロータリークラブの報告です。次回はそのお墓参りの報告を期待しています。

(2)2660地区関連記事

【9ページ】

特集「地域社会で汗を流す」

前述の大阪RC「橋洗い」に参加

【44ページ】

新インターアクトクラブ発会

高槻中学校・高等学校

【58ページ】

ロータリー・AT WORK

大阪梅田RC

「支援学校の子どもと家族を野球観戦に招待」

【62～63ページ】

ロータリー俳壇 大阪北・・・吉田 邦男

東大阪東・・・島 顕佑

ロータリー柳壇 豊 中・・・関谷 洋子

大阪大淀・・・長谷川 眞哲

(3)その他注目記事

【25ページ】

「公益財団法人 ロータリー財団

平成26年度事業報告」

詳しくは知らないロータリー財団の活動が具体的に分かる報告です。

【29ページ】

「新しい発想でロータリーを」

二神編集長の報告ですが、「Eクラブ」について解説報告されていますが、Eクラブそのものがどんなものか、どの様に活動しているのか、などが分かります。小生もEクラブのメンバーとお話した経験がありますが、われわれ通常のクラブにまして充実したロータリー活動をしておられることが判ります。

編集長はこの報告を通じて、ロータリアンの多様性も訴えておられますが今月号には、あちらこちらに多様性をよく理解しようという主張が記載されています。

【33ページ】

「米山に、はまってみませんか？」

台湾の米山学友 呉 佩珊さんの取り組みですが、呉さんは「日本で学んだ多様性と柔軟性」と述べておられます。国際交流を通じて、両国の為にも役立って欲しいと願うばかりです。